



国際ロータリー第 2530 地区 郡山アーバンロータリークラブ

国際ロータリー第2530地区ガバナー 平井 義郎  
郡山アーバンロータリークラブ 会長 白岩 邦俊  
幹事 松川 義行



インスピレーションに  
なるう

第 6 回 例会 H.30.8.8 水

▶開会点鐘 ロータリー歌斉唱「我らの生業」 四つのテスト唱和 佐藤功一さん

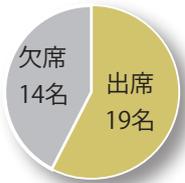
## 会長挨拶

白岩 邦俊 会長

私が急遽会長に選ばれたため、PETSには参加できませんでしたので、7月末に福島のカバナー事務所で、平井義郎ガバナー、阿久津肇地区運営委員長、酒井善盛地区研修委員長から、長時間の講習を受けてまいりました。以前に会長を務めた時とはだいぶ内容が変わっていると感じました。一番の印象は、RIや地区の指導者は危機感を強く持っていると感じたことです。会員増強に力を注ぐ必要を感じましたので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

## 出席報告

津野 順子 副委員長



総 員 33名  
出席率 57.58%  
前回修正率 51.58%

メイクアップ:鈴木かおるさん 鈴木尚子さん 藤田弘美さん

## スマイルBOX報告

渡邊 孝子 委員長

- ☺ 岩山 慎一▶長尾さんの卓話が楽しみです!
- ☺ 佐藤 功一▶長尾さんの卓話を楽しみにして。
- ☺ 鈴木かおる▶やっと涼しくなり、ほっとしましたが…。
- ☺ 松川 義行▶長尾さんの卓話楽しみにしております。
- ☺ 滝田 幸子▶長尾さんの卓話楽しみです。
- ☺ 大山三起雄▶長尾さん頑張ってください。
- ☺ 宗形千鶴 ☺ 橋本弘幸 ☺ 味戸誠一郎 ☺ 宮崎登志行
- ☺ 津野順子 ☺ 石堂勝壽

## 野球開会式について

鈴木 かおる 青少年奉仕委員長

18日(土)午前8時から、郡山アーバンRC杯中学野球大会の開会式を予定しております。青少年育成のための事業であり、中学校の野球大会の中でも、新人戦を前にした重要な大会と認識されており、年間行事のひとつとして定着しております。ぜひ多くの会員のご出席をお願いします。

## 地区補助金申請について

松川 義行 幹事

7月29日の地区ロータリー財団セミナーに、私と土田博ロータリー財団委員長が出席しました。地区補助金申請書類等が整備され、新書式交付等がありました。次年度以降に事業をお考えの方はお申し出ください。

## プログラム/会員卓話

### 私の青春時代と労音

長尾 勉 さん



うねめまつりを4日に見に行きました。去年は中央分区のロータリアンが踊り流しに参加していましたが、今年は参加していませんでした。松川義行幹事が参加しておられ、汗だくで踊っておられました。ご苦労様でした。今日は第1回のうねめまつりの写真を持参しましたので、回覧します。この写真に私が写っていますが、どこにいるかお分かりになるでしょうか。私の青春時代の後期の頃の写真です。その頃の様子をイメージしていただきたいと思います。昔話をするようになると老人になった証拠だとよく言われますが、私も後期高齢者となり、いつの間にか昔を懐かしむようになりました。

私の青春時代と言える20代は、昭和20年代後半から30年代の、日本が戦後の復興から高度成長期に至る、活気あふれる時代でした。しかしながら現在のよう高度に発展した情報化時代ではなく、携帯やスマホなど便利な通信手段はありませんでした。若い世代は、サークル活動とかグループ活動を通じて交流を図っており、個人的な話をしたいと思えば、喫茶店とか映画館に行くしかありませんでした。若い二人のための同伴喫茶などもありました。それだけ人間的な濃密な時を共有できたとも言えるわけです。

当時の若い世代の中心的文化団体のひとつに、労音がありました。正式には郡山勤労者音楽協議会と言う、音楽鑑賞の組織です。昭和33年に文化の殿堂として郡山市民会館が完成したことを機に発足しました。現在では市民会館は取り壊され、NHK郡山放送局の隣の駐車場になりましたが、当時の市民の文化活動の中心となっておりました。そうした中で、郡山労音は「市



プログラム／会員卓話

民総ぐるみの音楽活動」をスローガンにしておりました。左翼思想に染まっていた組織が多い中で、郡山労音はリベラルな立場の音楽鑑賞団体でした。

郡山では今でこそ「音楽都市」と言っておりますが、当時は「東北のシカゴ」と言われ、暴力団が跋扈する裏の顔を持つ街でした。有名な音楽家やオーケストラは東京から仙台に行ってしまう、郡山にはほとんど来ませんでした。「文化の途中下車」を合言葉に、市内の音楽愛好家や青年団体が立ち上がり誕生したのが郡山労音でした。生の音楽に接する機会の少なかった郡山市民は、砂漠にオアシスを求めるかのように、演奏会にはたくさん集まりました。労音の初代委員長は今泉正顕さんでした。当時は私の生涯の恩人になれる方とは知る由もなく、雲の上の存在でした。今泉さんがリーダーとなって誕生した郡山労音は、一時は会員数 6 千人を超える大きな組織に発展しました。活動内容は月 1 回の郡山市民会館における音楽鑑賞の例会が中心でした。催される音楽の内容は、クラシックからポピュラーまで幅広く、時にはオーケストラの演奏やオペラなども行われました。

現在、郡山は安積黎明高校の全国合唱コンクール連続日本一に輝く金字塔に代表されるような音楽都市となりました。当時の会員がやがて結婚して子供を産み、その子が孫を産むという命の連鎖の中に、あの労音の舞台上で聴いた豊かな音楽の数々が遺伝子となって、脈々と受け継がれてきた結果であると思っております。残念なことに、郡山労音は左翼団体であるという誤った先入観が一部の方たちに持たれているせいか、歴史の表舞台から消えようとしていることが、私は非常に残念です。郡山市が発行している「郡山の歴史」などを見ても、年表にはほんの 1 行、「昭和 34 年に郡山労音誕生」と記されているのみで、その内容や功績は紹介されておられません。

私の 10 代後半から 20 代の青春時代のほとんどは、労音で占められております。労音は音楽活動のみならず、若者のたまり場でもありました。「歌って踊って恋をして」と揶揄されたこともあるくらい、サークル活動が盛んでした。現在の若者と当時の若者の最大の違いは、この「群れる」という点であるのではないのでしょうか。どちらが幸せかは別問題ですが、当時は夢多き時代であり、郡山労音の活動の中で友情が芽生え、恋愛に発展し、結婚する男女もおりました。私は残念ながらそうした機会に恵まれず、30 歳になって見合い結婚をしました。仲人を務めてくださったのも今泉正顕さんでした。

労音の機関紙「むぎぶえ」の抜粋も持参しましたので、回覧します。私はこの機関紙を編集する宣伝部の一員として活動しました。機関紙の中のカット絵のほとんどは私が描いたものです。私は青春時代を非常に生真面目な生き方をしてきました。そのせいか今でも労音の女性たちから連絡があります。「あなたの顔など二度と見たくない」と言われるような、見苦しい別れ方

をしたことがないことが唯一の救いとなっています。

私は県教育委員会事務局安積出張所の嘱託でしたが、今泉正顕さんに拾われて郡山商工会議所の職員として採用されて 5 年間勤務し、昭和 45 年に開局した本県第二の民間テレビ局である福島中央テレビに、新たに専務取締役役に就任した今泉正顕さんに再び呼ばれて転職しました。総務、番組制作、東京支社などを経験し、平成 8 年に退職して現在に至っております。郡山商工会議所では、1 年先輩に滝田幸子さんがおられました。今もロータリーの会員としてご縁が続いていることに、無上の幸せを感じております。

こうして振り返ってみると、とても懐かしく、楽しく蘇ってきますが、もう一度あの時に戻りたいかと問われると、とてもその気にはなりません。それほど青春は脆く、不安定な要素に満ちており、私もその脆さゆえのほろ苦さを二度と味わう勇気はないからだと思います。それよりも、過去はあくまで過ぎ去ったこととして、葬り去ることなく、ここにおられる皆さんとのお付き合いが、現在の私のこの上ない喜びであり、宝物です。

■白岩邦俊会長

長尾さんのお話をお聞きして、郡山で名門の演奏を聴いたことを懐かしく思い出しました。労音で私が一番印象に残っているのは、ゲバントハウス管弦楽団が市民会館で演奏したことです。今泉正顕さんは郡山文化協会の中心でもありました。音楽都市として現在に至る皆さんの思いをさらに盛り上げ、折に触れて郡山の音楽について皆さんで考えていきたいと思っております。



ロータリー財団寄付者

- 橋本弘幸 ■味戸誠一郎 ■宮崎登志行 ■佐藤功一

米山記念奨学会寄付者

- 藤田弘美 ■滝田幸子 ■津野順子 ■佐藤功一
- 橋本弘幸 ■大山三起雄 ■白岩邦俊 ■石堂勝壽
- 宮崎登志行 ■宗形千鶴 ■味戸誠一郎

ポリオ寄付者

- 鈴木かおる ■宮崎登志行 ■橋本弘幸

▶閉会点鐘

SALON de "PETIT" **プティ**  
 飯原 由香  
 郡山市駅前 1 丁目 4-13 エリート 11 ビル 4F  
 TEL 024-923-3606

**第一地所**  
 石堂 勝壽  
 郡山市桑野 1-25-9  
 TEL 024-934-0340